

KELES Newsletter

関西英語教育学会報 2012年度 第3号

事務局：〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学 国際コミュニケーションセンター 横川博一研究室内

Phone: 078-803-7689 E-mail: yokokawa@kobe-u.ac.jp

学会ホームページ: <http://www.keles.jp/> 2013年1月28日発行



巻頭言

教え、伝え、そして、学ぶことのありがたさ — 滋賀での3年目の春を迎えて—

関西英語教育学会幹事 大嶋 秀樹 (滋賀大学)

滋賀に来て早や3年目の春を迎えることとなりました。大学の学部での学生時代の4年間を過ごした関西への赴任は、思えば、今の自分を育ててくれた心の故郷への恩返しを感じての赴任を決意した、3年前の春に始まります。振り返れば、大学の、しかも、教員養成に携わる教員になっての日々よりも、中学、高校、工業高専の、いわゆる現職の英語教員として過ごした日々がはるかに長い教員生活ですが、これまでの反面教師としての経験を学生に伝え、英語教師としての将来を、学生たちが思い描く中で、至らぬ英語教員としての日々を、率直に語り、今の自分を超越、次世代を担う若い世代を育て、教員社会の持つ文化の良さを伝えるリレーランナーになって、いつの日か、年を重ねた時に、そういえば、大嶋という変わった英語教師がいたなと思わせてくれればいいのか、というのが、関西への復帰の、自分なりの理由づけであったことを思い起こします。

今、巡って春の時期、英語教員としての誇れる自分よりも、反面教師にしかならないこれまでの自分への反省を込め、次世代を担う若い人たちの英語教師としての自己実現を後押しし、教え、伝え、学ぶなかでの発見、気づき、そして、人を育て伸ばすことの素晴らしさ、達成感の喜びを感じることができ

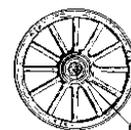
る、教員文化の良さを伝えることができればとの、手前勝手な、微力な自分なりの若者たちへの一助の思いを感じての3年前の赴任の頃を思い起こします。つい忘れがちな、大学教員としての3年前の初心ですが、真摯に学び、英語教員を目指す若者の姿に接し、自分も思い新たに、関西での3年目の春、損得や肩書とは別の、ひたむきさ、誠実さ、そして、若い人の持つ思いの真摯な姿に、教員養成を担う大学教員としての職責の重たさを、今更ながら感じます。

春の季節は、わたしには、できたことよりも、できなかったこと、してあげられたことよりも、してもらったことの多い、行き届かない大学教師としての自分振り返り、そんな自分を許し、励ましてくれた、若者との一期一会に感謝し、門出を祝う、大切な時期です。ささやかではありますが、教え、伝え、そして、学ぶことの大切さ、ありがたさを、若者たちに伝え託すことができる、今の自分の立場への感謝の時期でもあります。年年歳歳、迎えた3年目、自分が滋賀に来たことの意味は何だったのだろうか、自分に問いを向けることで、教員養成に関わる教員としての思いをまた新たにすることができる、自分にとって何よりの幸せを感じる節目の春を迎えます。

ふつふつとわき起こるそんな思いは、教師であれば誰もが抱く、過ぎ去った時をかみしめ、教師冥利を感じることができる、1つの教師文化の良さに違いありません。教師に向けられる目の一段と厳しさを感じる世相ですが、時や世代を超えて、分かち合える教師文化の良さは、逆風の中、英語教師にとっての誇るべき良心であることでしょう。

迎える2月9日、卒論・修論セミナーは、そうした教師文化の良さを伝える、世代間のバトン・パスのまたとない機会です。学生たちの熱い思いに、みなさまも、ご自分の教職・研究職の初心の頃に思い

を馳せ、巣立つ若者を励まし、見守ってくださればと思います。厳しく、暖かく、巣立っていく若者の門出を祝い、送るエール、それは何よりの花向けに違いありません。みなさまと、巣立つ若者の門出を間近に見る、3年目の春、また、熱い思いがこみ上げてきます。



報告

関西英語教育学会 2012 年度 KELES セミナー

第 26 回 KELES セミナー

開催日：2012 年 11 月 11 日（日）

会場：龍谷大学・大阪梅田キャンパス

「誰にでもできる—英語で進める英語の授業」

京都外国語大学 齋藤 栄二先生

「授業を英語で」が英語教育界の内外から大きな関心を集めている昨今、齋藤先生はそんな時代のニーズに応じて、「英問英答による内容理解の進め方」についてお話しされた。

最初に、この方法は、十分な音読を踏まえた上で、まずは教師の発問に生徒が答えるという形に始まり、次に英問英答を生徒どうしのペアワークに任せるという手順を踏むものであることを説明された。なお、ペアワークにおいては、生徒による発問が容易になるように、文章をいくつかに分割して、その1区切りごとに尋ねるべき問いを準備してやる必要があると付言された。

続いて、従来の訳読方式の授業は教師から生徒への一方通行になりがちだが、この質問方式では生徒どうしの活動が可能になり、生徒の授業への主体的な参加と脳の活性化が促進されると力説さ

れた。最後に、英問英答に不慣れな生徒や音読が苦手な生徒の指導、新出単語の導入法、質問の作り方、生徒の指名方法にも言及された。

齋藤先生のご講演は、いつも具体的かつ実践的で、お話をうかがうたびに「自分も早速やってみよう」という気にさせられる。ご講演のタイトルに「誰にでもできる」とある所以である。

報告者：橋本 雅文（京都教育大学附属高校）

「効果的なリーディング指導ア・ラ・カルト」

大阪教育大学 吉田 晴世先生

認知メカニズムの解説も織り交ぜながら、すぐに役立つ具体的なリーディング指導法の数々をご伝授くださいました。盛り沢山のメニューの中から紙面の都合上、いくつか報告します。

①フレーズリーディング：チャンクで区切った後、指で文章をなぞりながら黙読。返り読みの矯正に効果的。②ICT を活用した音読：パワーポイントの文字が順次消える機能を利用した速読。③「音読サーキットメニュー」：考えながら学習できるように工夫。例えば、英文の上にこぼしたコーヒースミに見立てた空欄を補充して読む。特定の品

詞を空欄に、また、retell できるような様々な仕掛けが可能。④音読のペアワーク：30秒毎に教師の“Change!”の掛け声で音読を交替。3分間にペアで読めた量をクラスで競う役割を果たす達成感を与える活動。その場で実践があり、受講生の私達は夢中で取り組み、効果を実感できました。

他にもクローズテスト、発音とスペリングの関係習得できるc-test、多読、読書ノート等々、滋養たっぷりのご講義でした。満腹感と共に明日の授業はダイナミックにできそう！そんな希望と活力を持ち帰りました。

報告者：笹井悦子（桃山学院大学・非常勤）

「英語リーディングテストの考え方と作り方」

筑波大学 卯城 祐司先生

「リーディングテストでは、教科書で一度読んだ英文をテストに出すべきでない」を問いかけて、その是非やリーディングテストのあり方について話された。初見でない教科書英文をテストとして扱う理由としては、「学習意欲を喚起する」「指導と評価の関連性を理解する」「授業の理解度や取り組み状況を知る」などを挙げられた。その上で教科書と同一の英文を回避するための工夫としてオーラル・イントロダクションやサマライズした英文、原文の活用などの実際例を紹介され、授業に拡がりがないとテストにも拡がり生まれず、教師は確かな考え方を持つ必要があると話された。

関西人にサービス精神を発揮されたのか、後半はビデオなど多様な内容も紹介された。時間が許せば、形成的・統括的評価など評価自体のあり方とテストの考え方との概念を交えて、教師はテストをどう作成すべきかについても聞きたいところであった。

報告者：中井 弘一（大阪女学院大学）

*

第27回 KELES セミナー

開催日：2012年12月23日（日）

会場：同志社大学・今出川キャンパス

「学習英文法のどこをどう変えるのか」

関西外国語大学 岡田 伸夫先生

英文法の習得は英語でのコミュニケーション能力を身につけるためには必須であるが、既存の学習英文法には不適切な部分も多くある。このような問題意識のもと、岡田伸夫先生は、「学習英文法のどこをどう変えるか」というタイトルで、学習指導要領における学習英文法の取り扱いに対して、近年の英文法研究の知見がどのような示唆を供するかというテーマでお話をされた。

改訂された学習指導要領で新たに示された点に焦点を当てて、①日本語と英語の違いに配慮することから、広く言語に関する能力向上を重視すること、②個々の文法事項の背後にある原則をまとめて効果的な指導を工夫すること、③文をフラットな要素の連鎖（文型）ではなく階層構造として捉えてまとまり（構成素）を意識させること、④語形成規則に基づく複合語などの導入により語彙の制限を克服する試みなどのお話がされた。

それぞれの話題が、英語学・言語学研究がこれまでに積み重ねてきた膨大な研究からの豊富な用例に基づいていて、非常に説得力のある説明であった。

報告者：橋本 健一（近畿大学）

「動詞意味論と英文法指導のかけはしを目指して」

滋賀大学 坂東 美智子先生

坂東先生からは、生成文法の語彙意味論の中の動詞意味論に基づいた、実際の英文法の指導にも活かすことができる言語学の統語論的知見を、多くの動詞を例にあげて、大変具体的に分かりやすく説明していただきました。

動詞意味論の前提としてまず項構造と語彙概念構造のご説明があった後に、動詞の意味範囲を、「<Action> → <Change> → <State>」という連鎖の観点からとらえ直す動詞意味論の基本的な考え方が紹介されました。この連鎖のどの側面が切り取られるかが動詞の統語構造に反映され、従来アスペクト的な意味から「活動」「到達」「達成」「状態」などに分類されていた動詞群も、より明快に整理され理解できることが示されました。これにより、自動詞と他動詞の交替・与格交替・「壁塗り構文」交替の可否条件や、「ゼロ派生名詞」の生成メカニズムなど、従来は説明しにくかった項目も明確かつ合理的な説明を与えることが可能となりました。

フロアとの質疑応答も活発で、文法に対する参加者の関心の高さと相まって、まさに動詞意味論と実際の英文法指導のかけはしとなる何よりの実例として、本ご講演は最後まで有意義で充実したものとなりました。

報告者：里井 久輝（龍谷大学）

「英文法指導にはライティングが欠かせない」

千葉大学 大井 恭子先生

新学習指導要領では、四領域をバランスよく指導しつつ、最後にライティングで定着を図ること、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の

展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養うことが重視されている。言語の意味的な処理から正確な産出に必要な文法処理への移行を促すことによって、気づきや仮説検証の機会が与えられ、メタ言語知識が獲得されることに、言語習得におけるライティングの意義があると言う。また、「手書き」をすることで、書くことで内容が頭に定着するのであり、筆記思考の重要性を強調された。

中3生の書く力に関する全国調査の結果から、文と文のつながりを工夫して展開する力が十分に身につけておらず、結束性を高める指導が必要で、新教科書でも文法の定着はライティングで行うようになっていることに言及された。また、実践の取り組みから、中学生が姉妹校交流を取り入れた授業によって、相手意識と書く目的を明確に持つことで動機づけが高まり、パラグラフ・ライティング指導の結果、かなり英文を書けるようになったと実感した中学生の事例も示された。

外国語学習においては「文法」は要であり、日本語と対照して学びが促進され、それは書いてこそ達成されると、もう一度原点に立ち返りライティング指導を行うことの重要性を示して下さった。ご講演を拝聴しながら早く実践してみたい衝動に駆られた聴衆も多かったと思われる。

報告者：泉 恵美子（京都教育大学）

学会事務局からのお知らせ

会議報告

◆ 関西英語教育学会

平成24年度第3回拡大理事会

2012（平成24）年12月23日（日）10:00～11:45まで、同志社大学・今出川キャンパス・明徳館1

階 M3 教室に於いて、「関西英語教育学会 2012（平成24）年度第3回拡大理事会」が開催された。

主な議題は、次の通り。

1. 学会ウェブサイトのリニューアルについて
2. 2012年度課題研究プロジェクト：研究課題名「認知言語学的知見に基づく英語学習：文法と語彙」、プロジェクト・リーダー：赤松信彦（同志社大）、

研究期間：平成25年4月1日～平成27年3月31日（2年間）が採択された。

3. 2012年度授業研究プロジェクト：研究課題名「小学校英語教育における発音とプロソディの指導法」、プロジェクト・リーダー：今井裕之（兵庫教育大），研究期間：平成25年4月1日～平成28年3月31日（3年間）が採択された。
4. 第28回 KELES セミナーについて
5. 第16回卒論・修論研究発表セミナーについて
6. 第38回全国英語教育学会「課題研究フォーラム」報告
7. 第39回全国英語教育学会「課題研究フォーラム」企画について
8. 関西英語教育学会2013年度（第18回）研究大会
9. 学会規定の改正について

KELES行事のご案内

◆関西英語教育学会 第29回セミナー

日時：2013年2月3日（日）12:40～17:40
（12:00 受付開始）

会場：天理大学・杣之内キャンパス 2号棟22A
教室（〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050）

参加費：会員・非会員とも無料（※要事前登録）

内容：＜実践発表＞Ⅰ. 「英語で授業—中学校の場合—」谷口 紘子先生（橿原市立八木中学校）
＜実践発表＞Ⅱ. 英語で授業—文科省プロジェクトとこれからの高校授業を考える—中永 利法先生（奈良県立桜井高校）・中井 英民先生（天理大学）・佐藤 臨太郎先生（奈良教育大）
＜ワークショップ＞ “The Impact of Phonics on Pre-teen ESL Learners” Matthew Reynolds 先生（English Please）＜講演＞「英語で行う授業をめざして：インプットとアウトプットをつなぐシャドーイング」門田 修平先生（関西学院大学大学院・教授）

◆第16回卒論・修論研究発表セミナー

日時：2013年2月9日（土）9:30～17:30

会場：神戸学院大学・ポートアイランドキャンパス

内容：学部学生による卒業論文・大学院生による修士論文の研究発表（口頭・ポスター発表）
スペシャル・トーク

講師：村野井 仁 先生（東北学院大学・教授）

演題：「題材内容を重視した CLIL 的技能統合型の英語授業-第二言語習得理論に基づく検討」

参加費：会員，非会員とも 500 円（当日，予稿集を配布），セミナー終了後，懇親会を開催しますので，奮ってご参加下さい。一般 2,500 円 学生・院生 1,000 円

※詳細は，同封のプログラムをご覧ください。

◆関西英語教育学会2013年度（第18回）研究大会

日時：2013（平成25）年6月8日（土）・9日（日）

会場：関西国際大学・尼崎キャンパス（予定）

〒661-0976 尼崎市潮江1丁目3番23号

主催：関西英語教育学会

後援：関西国際大学（交渉中）

参加費：会員 無料、非会員 一般 2,000 円、
学生 1,000 円

発表募集カテゴリー

(1) 研究発表（理論的，実証的研究の発表）

(2) 事例報告（授業実践に関する報告）

(3) 公募ワークショップ（1人または複数の講師による英語授業実践をテーマとした企画）

(4) 公募フォーラム（コーディネーターおよび数名の英語教育にかかる理論的・実証的研究をテーマとした企画）

発表募集期間：2013年2月12日（火）～4月12日（金）23:59 まで

応募方法：本学会ウェブページの申込フォームから，必要情報を入力して送信して下さい。

※詳細は，同封のご案内をご覧ください。また，学会ホームページに随時情報をアップします。

事務局からのお願い

◆学会費納入のお願い

(1) 2013年度の年会費の納入をお願いします。(2) 2011年度・2012年度分の学会費が未納の方は、至急納入をお願いします。(3) 第39回全国英語教育学会でご発表を希望されている方は、2013年2月28日(木)までに全国英語教育学会に入会し、2012年度分の全国英語教育学会学会費の納入をお済ませ下さい。2013年3月1日以降に入会・学会費を納入をされても、理由の如何にかかわらず、発表資格がありませんのでご注意ください。

詳細は、同封のご案内をご覧ください。

各種お問い合わせフォームについて

学会ウェブサイトのリニューアルに伴い、各種お問い合わせフォームも一新しました。お問い合わせには、学会ホームページの各種お問い合わせフォームをご利用下さい。

URL: <http://www.keles.jp/>

▶入会をご希望の方

▶研究大会

研究大会の発表応募、企業展示の申込みなど

▶各種セミナー

セミナーへの参加登録、発表申込み、企業展示の申込みなど

▶学会誌『英語教育研究』

学会誌への論文投稿など

▶お問い合わせ

学会費、学会誌、研究大会、各種セミナー、入・退会、会員情報の変更、その他学会全般に関するお問い合わせ

